

日 時：令和7年6月20日（金）10:00-12:30
場 所：オンライン開催
主 催：総務省自治行政局国際室

北九州における 外国人支援事業のあゆみとこれから ～地域共生社会に向けた新たな取組み～

公益財団法人北九州国際交流協会

北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター長
多文化ソーシャルワーカー/地域日本語教育総括コーディネーター

矢野 花織

平成 2(1990)年度 北九州国際交流協会設立

平成 5(1993)年度 福岡県行政書士会による
「入国・在留・国籍手続き無料相談会」開始

平成 7(1995)年度 福岡県弁護士会北九州部会による
「無料法律相談会」開始

平成 13(2001)年度 臨床心理士による
「無料心理カウンセリング(旧:なやみごと相談会)」開始

平成 19(2007)年度 「国際交流協会のあり方」検討委員会を設置
「今後のあり方及び経営改革の取り組み」の見直しプラン策定

平成20(2008)年度 「外国人相談窓口」開設
「外国語相談員」配置

平成21(2009)年度 「行政通訳派遣事業」開始
「地域日本語教育専門職(コーディネーター)」配置

→P9~13

平成23(2011)年度 「医療通訳システム検討委員会」発足(翌年に派遣開始)

平成24(2012)年度 「外国人相談窓口」を「外国人インフォメーションセンター」
に名称変更

平成25(2013)年度 「北九州外国人支援関係機関連絡会議」を開始

CLAIR「多文化共生のまちづくり促進事業」を活用し、
「日本語教室を核とした共生の地域づくり検討事業」を実施

→別紙「ANADO」P2『はじめに』

平成28(2016)年度 専門職の介入が必要だと思われる通訳依頼について、
通訳派遣担当と外国人相談担当とのケース会議を開始

平成30(2018)年度 CLAIR「多文化共生のまちづくり促進事業」を活用し、
「多文化ソーシャルワークの導入による多文化共生の
地域づくり推進システム検討事業」を実施

平成31(2019)年度 出入国在留管理庁「外国人受入環境整備交付金」を活用し、「外国人インフォメーションセンター」にかわる一元的相談窓口として「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」を開設

「多文化ソーシャルワーカー（社会福祉士）」配置

令和元(2019)年度 「相談・通訳コーディネーター」配置
文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、地域日本語教育事業の充実（5年計画）を実施

→P9~13

令和6(2024)年度 文部科学省「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、地域日本語教育事業の充実（3年計画）
を実施

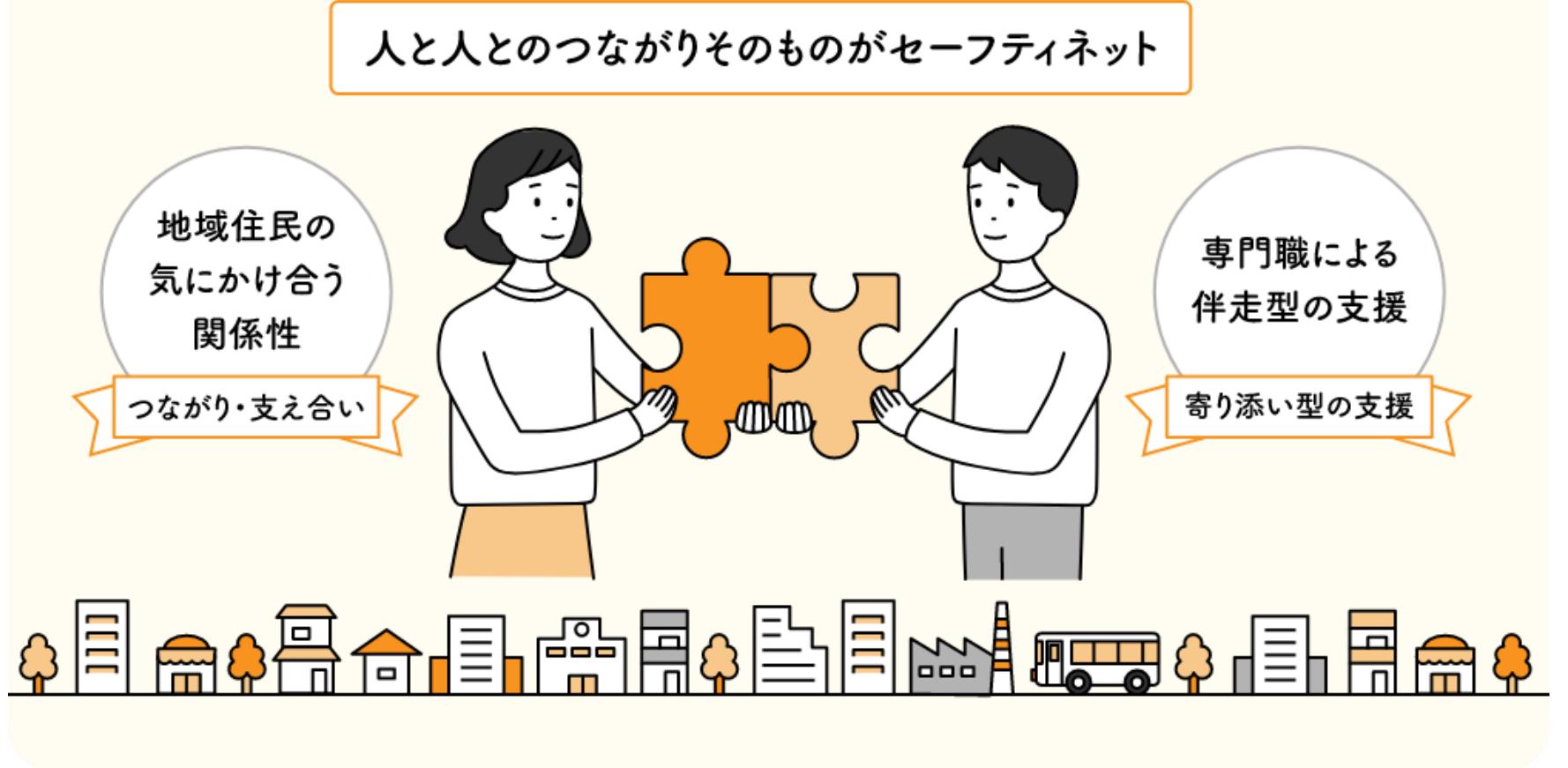
→P9~13

令和7(2025)年度 CLAIR「多文化共生のまちづくり促進事業」を活用し、「地域共生社会を目指した多文化ソーシャルワーク推進事業」を実施

地域共生社会の実現を目指して

厚生労働省 地域共生社会のポータルサイト

<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/#tiikikyosei>

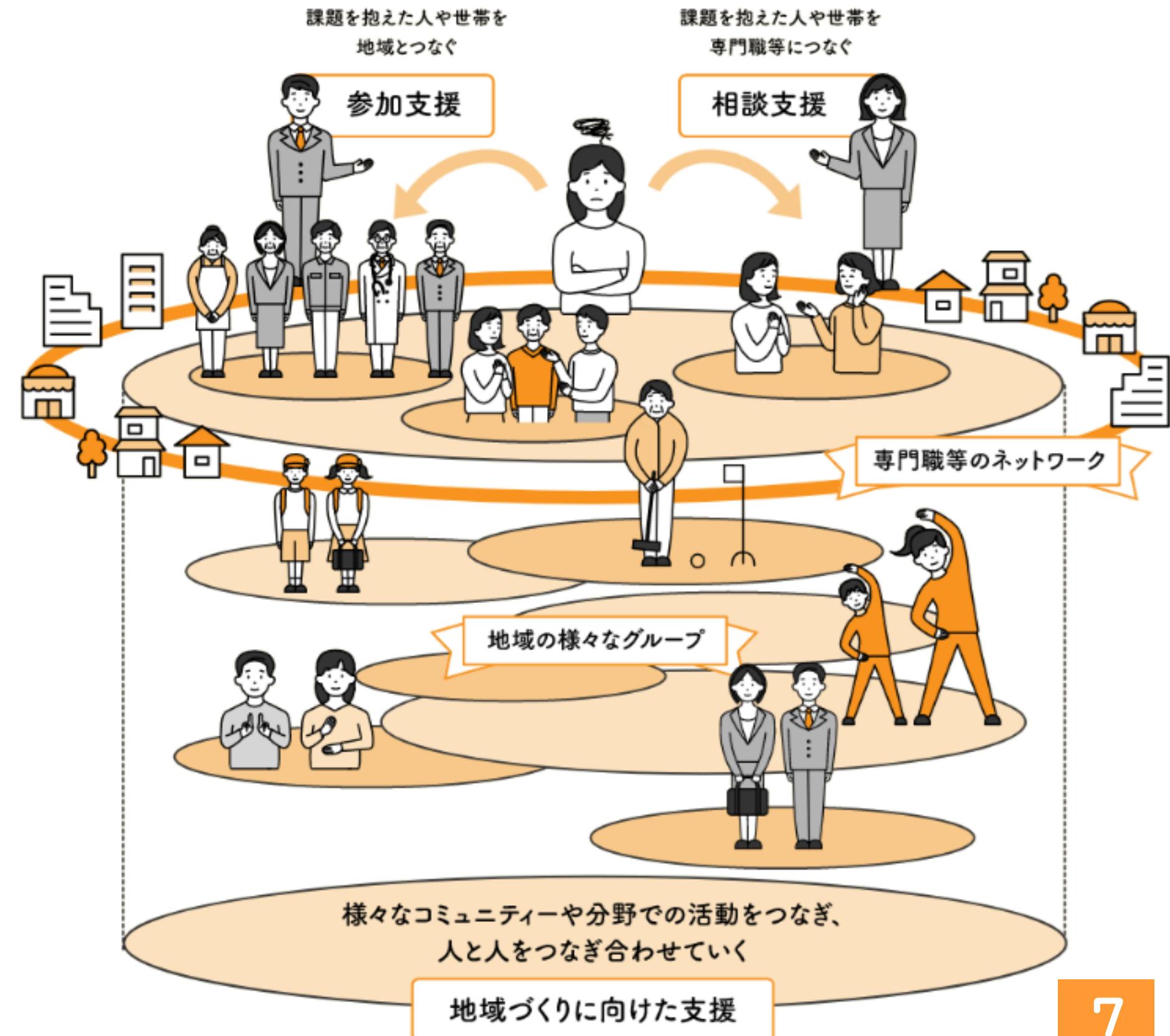


地域共生社会とは

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。

【重層的支援体制整備事業】

市町村全体がチームになり、3つの支援を一体的に実現する



「外国人支援」の事業を これからは「地域共生社会」の視点で

令和7年度の新たな取組み

「地域との連携による 多文化ソーシャルワーク推進事業」

背景と目的

当協会では、平成30年度にCLAIR「多文化共生のまちづくり促進事業」の助成を受け、多文化ソーシャルワーカーを中心とした支援体制の検討を行った。

そして、平成31年度に多文化ソーシャルワーカーの配置が実現し、行政・専門職との確かな信頼関係をもとに、複雑・深刻なケースにおける対応実績を積み重ねてきた。しかし、現行の多文化ソーシャルワークは、主に公的制度に基づいて進めているため、地域生活課題に対する解決支援までは十分に行き届いてはいない。

そこで、外国人支援に関する知識と経験の蓄積をもとに、地域（日本人住民・外国人住民）とつながりながら、地域課題を共に考え、解決していくというアウトリーチ型の取組みを通して、地域共生社会の実現に向けた一歩となることを目指していく。

地域共生社会の実現を目指して



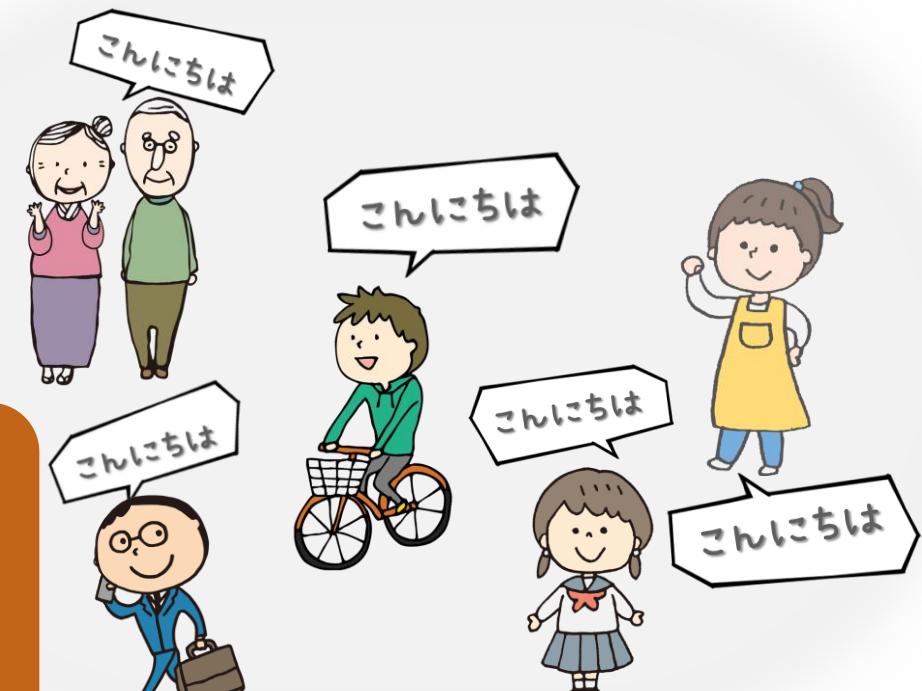
地域共生社会とは

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。

厚生労働省 地域共生社会のポータルサイト <https://www.mhlw.go.jp/stf/konseiisivakainortal/#tiikikvsei>



目指したいのは
持続可能な
かたち



北九州における 地域日本語教育 事業の紹介(抜粋)

1. 北九州市内の日本語教室の状況
2. 北九州国際交流協会による日本語教室
3. 「ANADO (アナドゥ) ~あなたならどうする?」

「さまざま」な日本語教室の開設・運営と「さまざま」な空白解消

北九州国際交流協会が運営する教室		市民ボランティアが運営する教室(全7区)
		・八幡西区、八幡東区で市民ボランティアグループによる日本語教室がスタート
2008 (平成20)	子どものための日本語教室スタート (～現在)	
2009 (平成21)	日本語教育専門職を配置し「日本語チーム」を新設 (～現在)	・若松区で日本語教室スタート (協会は、教室の立ち上げから軌道に乗るまでを支援)
2010 (平成22)	生活者のための日本語教室スタート (～現在)	・小倉北区で日本語教室スタート (協会は、教室の立ち上げから軌道に乗るまでを支援)
2011 (平成23)		・戸畠区で日本語教室スタート (協会は、教室の立ち上げから軌道に乗るまでを支援)
2012 (平成24)		・小倉南区で日本語教室スタート (協会は、教室の立ち上げから軌道に乗るまでを支援)
2019 (令和元)	文化庁補助事業開始 (2022年に教室すべてをオンライン化～現在)	
2023 (令和5)	・教室パートナーの導入 ・マッチングパートナー制度開始 (～現在)	・門司区で日本語教室スタート (協会は、教室の立ち上げから軌道に乗るまでの支援)

北九州国際交流協会が運営する日本語教室

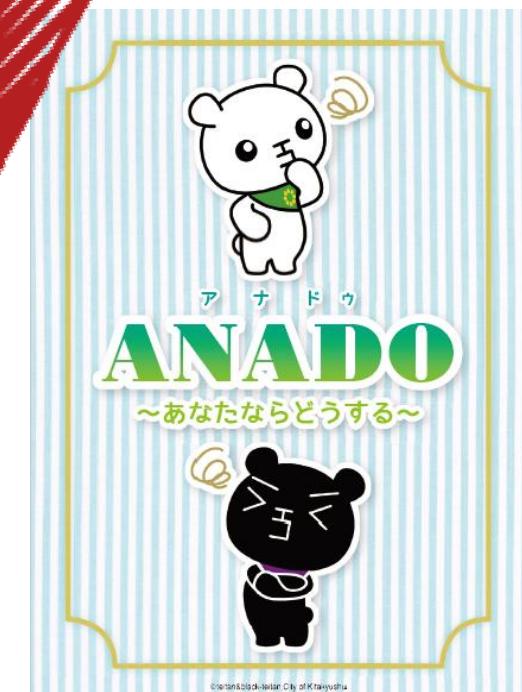
曜日	月	火	水	火	金	土
教室名	<u>にほんご3</u>	<u>にほんご2</u>	<u>にほんご1</u>	<u>にほんご2</u>	<u>にほんご1</u>	<u>子どもの 日本語教室</u>
内容	生活で使う会話 (A2.2レベル)	生活で使う会話 (A2.1レベル)	生活で使う会話 (A1レベル) ひらがなカタカナの読み書き	生活で使う会話 (A2.1レベル)	生活で使う会話 (A1レベル) ひらがなカタカナの読み書き	読み書き、会話
回数	計10回 ①5月～7月 ②9月～11月 ③12月～2月	計20回 ①5月～7月 ②9月～11月 ③12月～2月	計20回 ①5月～7月 ②9月～11月 ③12月～2月	計20回 ①5月～7月 ②9月～11月 ③12月～2月	計20回 ①5月～7月 ②9月～11月 ③12月～2月	①6月～ (月1回) ②夏休み (計8日)
方法	オンライン					対面
時間	10:00～11:30					

地域日本語教育を進める上での課題をゲームに

地域日本語教育の取組みは、
とってもやりがいがあるけれども
課題や悩みもたくさん・・・



すべてのカードは、
「あな(ANA)たら、どう(DO)しますか？」
という2択になっているので、
「ANADO(アナドゥ)」という名前をつけました。



地域日本語教育の“あるある”
シミュレーションゲーム

ANADO

(アナドゥ)

～あなたならどうする？～

ANADOって？

地域日本語教育の現場で起こりうる困難や葛藤などについて、他のプレイヤーと意見交換をしながら、課題解決のプロセスを体験することを目的としたシミュレーションゲームです。

北九州の地域日本語教育コーディネーターが自分たちの周りの悩みや、全国各地の仲間たちから集めた“あるある！”という共通の課題をもとに、楽しい研修ができるかと試行錯誤を重ねてつくりました。



<https://www.kitaq-koryu.jp/japanese/group/anado/>

詳しくは「解説書」をご覧ください

ANADO



どうもありがとうございました

k.yano@kitaq-koryu.jp